

IV 熱中症事故防止現地調査



災害共済給付事業の実施によって得られる災害事例及び統計データによると、熱中症による重大事故は減少傾向にあるものの繰り返し発生している。

この状況を踏まえて、学校における体育活動での熱中症予防のための管理・指導、熱中症の基礎知識と予防、発生した場合の救急処置の留意点、学校・スポーツ団体等が実践している取組事例等を調査・分析することとした。

この調査・分析の一環として設置した熱中症ワーキンググループにおいて実施した現地実地調査の概要を報告する。(学校による予防取組事例2件、競技団体等による予防取組事例1件の合計3件)

1 調査概要

学校による予防取組事例1

【調査内容】

教育委員会主導の下、熱中症の予防に力を入れている学校を訪問し、対策について調査・分析した。

【取組内容】

(1) 教育委員会の取組

- ・教職員を対象とした研修会を、年2回開催
- ・全中学校に送風機、冷風機、黒球式熱中症指数計、温湿度計を設置

※ 設置している温湿度計は、職員室のモニターで確認できる仕組み



冷風機



送風機



温湿度計のモニター

(2) 学校の取組

- ・1年生を対象とした熱中症予防講習会の実施
- ・6月に職員を対象とした熱中症予防講習会を実施
- ・部活動、体育の授業等における熱中症の注意喚起

※ 夏季休業中の部活動参加者に対しては、「部活動参加カード」の提出を義務（保護者押印）付け、生徒の体調について保護者と情報共有を図っている。

【効果等】

部活動や体育の授業の際、その前後を含めた体調管理、適切な水分・塩分補給の意識が高まり、教職員、生徒は、熱中症予防の対応行動が取れるようになった。

また、熱中症と思われる症状を訴える生徒も減少傾向にある。

【協議会委員コメント】

教室等のエアコン設置や乾湿計の設置などの環境整備や携帯用WBGT測定器などによる情報の収集と提示などに加え、熱中症予防教室の開催、部活動や体育などにおける活動前・中・後の体調管理に力を入れることにより、適切な水分・塩分補給や熱中症予防への意識が高まってきており、生徒も教職員も熱中症への対応行動が取れるようになり、今年の夏の例年に比べて厳しい暑さにもかかわらず熱中症の減少となって効果が表れてきている。

今後もこれらの取組を継続し、一層の効果上げるためには、教職員が中心となって行なっているこれらの活動を、生徒も主体的に取り組めるような方法、生徒会の参画などを含めた一層の工夫が望まれる。

学校による予防取組事例 2

【調査内容】

体育的部活動中に事故が起きた学校を訪問し、事故後の取組等について調査・分析した。

【取組内容】

当該運動部では、バディシステムを導入し、部員同士で相手の体調等のチェック体制を確立した。

- ・ WBGT 指数を把握し、危険な状況であれば、室内授業に切り替えるなどの対応を取っている。

【協議会委員コメント】

事故発生後には、熱中症予防に関する対応指針の策定と生徒への教育、広報による生徒・保護者への啓発、学校医による教員の研修実施など綿密な再発防止策を講じている。とりわけ、全部活動について、ロードでの練習を禁止し、敷地内のコースでのランニングの実施、当該運動部でのバディシステムの導入による仲間同士での相手の体調等管理、夏休みの 12 時～15 時の練習禁止、顧問が必ず練習につく、部活動中は必ず涼しい部屋を準備する、今年の夏から子供用のプールに冷水を溜め、グラウンドの日陰に設置する等、具体的な対策を行っており、成果を上げている。

これらの取組を継続し、一層の効果上げるためには、教師が中心となって行っているこれらの活動を、生徒も主体的に取り組めるような方法、生徒会、部活動のキャプテンやマネージャーなど生徒の参画を進めるなど一層の工夫が望まれる。

競技団体による予防取組事例

【調査内容】

熱中症対策に特に力を入れている競技団体の取組を調査・分析した。

【取組内容】

- ・ 大会期間中、1 日当たり 15 名の理学療法士を配置し、試合前の選手への体調確認や、試合後のクールダウンの指導などを行っている。
- ・ 救護室だけでなく、大会本部にも医師が常駐している。
- ・ 試合前から試合後まで、選手用飲料水の全ての準備、提供を行っている。
- ・ 参加選手に対して、飲料水（経口補水液やスポーツドリンク等）を提供するとともに、水分補給忘れが発生しないよう、選手ごとの背番号入りカップを準備し、チームメイトで管理、補水させている。
- ・ 観客や応援団に対しても、大会役員を応援席に 1 名配置するとともに、観客席通路等に大型扇風機やミスト扇風機を設置するなどの対策を講じた。
- ・ 1 塁、3 塁のアルプス席に散水機（ミスト）を 3 台ずつ準備し、学校関係者に散水させている。
- ・ 宿舎への移動バスに飲料水を配備している。



理学療法士によるクールダウン指導



補水する選手



アルプス席で散水に向かう学校関係者

【協議会委員コメント】

理学療法士、医師、気象予報士など専門家が参画し、組織的、計画的な熱中症対策を実施している。具体的には、関係者全てを対象とした給水、選手の事前事後の体調管理やウォーミングアップ、クールダウンはもちろん、観客や応援団へのミスト散布、通路等への冷風装置の設置、試合を中断しての給水タイムの設定など、きめの細かい対応を実施しており、年々対策を積み重ねることにより、発症者なども減少しつつあることは、評価すべきである。伝統的に暑い夏に行われる甲子園大会は、これまでの成果と課題を

分析しながら、温暖化の進行が懸念される中、一層の熱中症対策の充実が望まれる。

また、地方大会の運営に加え、日常の部活動における熱中症予防並びに眼や歯・口などの外傷防止対策の推進に関して強力なリーダーシップを発揮し、全国の野球部活動での安全確保に一層力を入れられることを期待したい。